ロッテルダム港とアムステルダム港

会員　福冨　廉

オランダの２大商港ロッテルダムとアムステルダムを訪れたので、そこの船と港についてレポートしたい。とりわけ、保存されかつホテルとして利用されているかつてのスーパーライナー、元ホランド・アメリカ・ラインの「ロッテルダム」（1959 年建造、38,621GT）　の見学と宿泊は今回の大きな目的の一つだった。

１．ロッテルダム港

（１）SS ロッテルダムの見学と宿泊

今回の旅行では、オランダのスキポール空港に到着後、電車、地下鉄、バスと乗り継いで、まず何としても行ってみたかった宿泊先の SS ロッテルダム（ホテル）に向かった。バスを降りて、かつて神戸で出会ってもう 50 年近くになるだろうか等々と思ってその姿を見ていたら、その船尾の向こうに「リビエラ」が入港してくるのを見つけて思わず駆けだしてしまった。船尾の向こうが港のメイン航路で少し上流に行ったところに客船ターミナルがあったのだ。

ホテルにチェックインして荷物を預けた後、直ちに船内見学に向かった。船内見学は、

① 機関室以外の船内自由見学　12.95 ユーロ（蘭語または英語のガイドレシーバー付き）
② 機関室のガイドツアー　12.95 ユーロ（平日 1 時間毎、休日 30 分毎）
③ ①と②の両方　16.50 ユーロ

の 3 種類があって、当然③に参加した。本来は②は予約が必要なのだが、オンライン予約ではクレジットカードが使えなかったので、まあ平日だし大丈夫だろうと思って現地で申し込みした。

まず機関室見学に行き、選択した英語の係員が初めにインドア・プールを見せてくれた後、機関室に入って本船の蒸気タービンの仕組みについて詳しく説明してくれたが、中でも私が興味を持ったのはむき出しに設置されていた押出式のフィン・スタビライザーだった。ツアーの最後は機関室からのエスケープ・トランクの階段をプロムナード・デッキまで 5 階分ほど自力で上がらなければならず、それが大変だった。その後は順路に従っての船内見学だが、船内をくまなく見せてくれるため、体力的にはこれもかなり大変だった。現役時代の中身は何も知らないので違いはわからないし、家具調度はかなり入れ替えもされているようだったが、順路の各所に係員がいて直接のガイドもしていてくれていて、かつての華やかなりし頃を思い浮かべて見学した。

SS ロッテルダム（ホテル）の全景

割り当てられた船室はかつてのツーリストクラスの船室を 2 つ連結した丸窓が高い位置にある部屋で、かつてのデッキプランと比べるとその構造はだいぶ異なっていた。また、夕朝食はリド・グリルにて供されていた

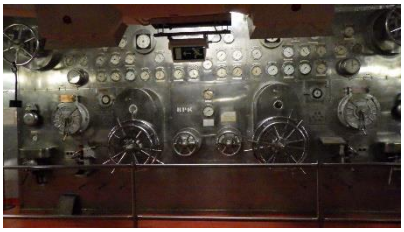
が、昔とはバー・スペースの位置が変わっていて、天井が今風のむき出しになっていた。このリド・グリルと後部のプールのあるリド・テラスは外部から専用の階段で直接上がってこられて利用できるようになっていた。なお、昔のダイニングルームは見学できなかったように思う。

家に帰ってからは、撮った写真と“写真集　世界の客船”（速水育三著、1971 年刊）や“SHIPS MONTHLY”の特集（2019 年 8 月号）等を見ながら、この稿を書いている。

SS ロッテルダム（ホテル）の全景

インドア・プール

左舷のフィン・スタビライザー



機関室の操作盤

右舷後方

船首から

ブリッジから

船尾リド・テラスを望む

右舷ボートデッキ前方

右舷アッパープロムナードデッキ前方

旧、１等アンバサダー・ルーム

旧、１等スモーキング・ルーム

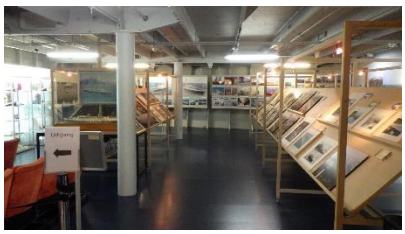
シアター

プロムナード・デッキ中央

大階段の上から見た旧、1等リッツ・カールトン・ルームと大階段

利用したホテルの客室

レセプション傍にある模型



機関室脇の資料展示室

入港してきた「リビエラ」(SS ロッテルダムの船尾傍から)

2000 年建造の帆船「スタッド・アムステルダム」
(SS ロッテルダムのデッキ上から)

（2）ロッテルダム港巡り

ロッテルダム港の港巡り乗り場は、ロッテルダム中央駅から地下鉄で 3 つ目のルーブハーフェン駅近く、ニューウェ・マース川に面したエラスムス橋脇のスピドーという乗船場から発着する。ルーブハーフェン駅のホームの壁は全て船の側面図の絵で覆われており、港巡りと反対側の出入り口脇に海洋博物館がある。スピドーの対岸がクルーズ・ターミナルでそことの間のエラスムス橋は大きな橋であるが跳ね橋で、日中の通行量の多い時間でも大きな船が通る時はトラムも車も全て待たされているのが見えた。また、スピドーは水上バスや水上タクシーの乗り場にもなっていてとても賑やかだった。

地下鉄ルーブハーフェン駅のホーム（両側全面こんな感じ）

ここの港巡りの遊覧船はメインの船が 3 隻あって、どれもユニークな形をしていて探検家の名前が付いていた。船は少し上流側に行った後反転し下流に向かうが、両岸には色々な船が泊っていて楽しい。その後、脇の中小型コンテナ船用のコンテナ・ターミナルに入っていったが、コンテナ船のすぐ脇、ガントリ・クレーンの真下近くまで接近したのにはとても驚いた。最後に、SS ロッテルダムとクルーズ客船「リビエラ」のすぐ傍を通って帰港した。

遊覧船「エーベル・タスマン」とてもユニークな船

遊覧船「マルコポーロ」(左)と「ジェームズ・クック」
スピドー乗船場

スピドー乗船場傍にはこんな所も（博物館では無い）

停泊していた「シルヤ・ヨーロッパ」

「エーベル・タスマン」で、ここまで近づく

こんな水上タクシーが縦横無尽に走っていた

CMV フラッグの「アストリア」　　本船は 1948 年建造の
元スエディッシュ・アメリカ・ラインの「ストックホルム」
1956 年 7 月「アンドレア・ドリア」と衝突した相手船だ。

クルーズ・ターミナルに停泊中の「リビエラ」と
ホランド・アメリカ公園（中央の低い茶色の建物が、
ホランド・アメリカ・ラインの元本社、現在はホテル）

（３）ロッテルダム海洋博物館

ロッテルダムの海洋博物館は 1874 年の開館だが、1987 年に現在地のルーブハーヴェンに新しい三角形の建物が建てられたのだそうだ。このルーブハーヴェンには様々な古い船が泊められておりとても楽しい。ここの展示はロッテルダム港の未来が掲げられる等、あまり古臭くない感じがしたが、ロイド・レジスター等がびっしりと並べられた図書室が圧巻だった。

海洋博物館の建物（入口とは反対の港側）

海洋博物館の内部

マリタイム・ミュージアム・ハーバー

元にしん運搬船「VL.92」博物館主催のデイ・クルーズ等

博物館傍の元灯台船「ヴェッセル 11」　今はレストラン

（４）キンデルダイクからドルドレヒトへ

19 基の風車が並んだ世界遺産キンデルダイク、ここへ行くには水上バスで行くのが最適で、14.5ユーロのツーリスト・デイ・チケットでその先のドルドレヒトまで地下鉄とトラム、バスを含めて乗り放題だった。キンデルダイクまで直行で約 40 分、両岸には様々な船、ノアの箱舟を模した博物館、スーパーヨットの造船所、完全に船の形をした建物等々、興味をひくものばかりだったし、川船特有の細長いクルーズ船や様々な貨物船もひっきりなしに行き交っていた。また、キンデルダイクの傍にはカーフェリーもあり、運河の遊覧船も走っていた。

水上バス「ブルー・バルセロナ」

水上バス「ブルー・ウィレムスタッド」

水上バス「ドレヒトスタッデン２」短距離航路

水上バス「ブルー・ヴェニス」短距離航路

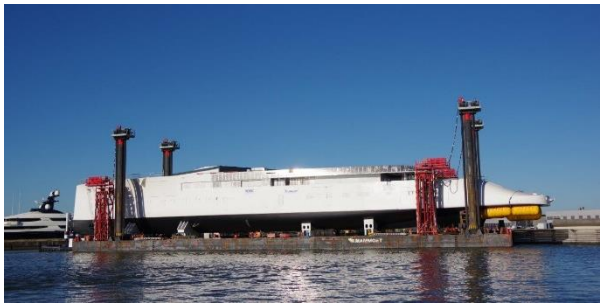
1926 年製の外輪蒸気船「デ・マジェステイト」
パーティ・シップらしい

客室が 4 階建てのクルーズ船「ア・ローザ・セナ」
ほとんどは 3 階建てだと思ったが

ノアの箱舟　　（宗教的な博物館らしく、
ハーフサイズの浮かぶレプリカ？とか）

船形の建物（木の陰だが船首もレーダーマストも有）
日系の運送会社等も入っているらしい

OCEANICO 社で建造中のスーパーヨット
左のは全長 105m、右端は屋根付きドック



これもスーパー・ヨットの船体

キンデルダイクの風車群と遊覧船「プリンセス・ベアトリクス」

キンデルダイク傍のカーフェリー「キンデルダイク」

キンデルダイクから船を 1 回乗換えて行く、上流のドレドレヒトの街は街中がまるで海洋博物館のようなところだった。古い建物の間のいたるところに小型の古い帆船が泊められており、古いタグボート等も点在していた。“ショージ先生の船の博物館めぐり（世界編）”によると、江差にレプリカのある「開陽丸」は 1866 年にこの街で造られたそうで、海洋博物館等もあるそうだったが、時間が無くて史跡を探しきれなかった。帰りは直行で約 1 時間の船旅。

1893 年製の蒸気タグボート「ピーター・ブール」

ドルドレヒトの街中①

ドルドレヒトの街中②③

２．アムステルダム港

（１）運河巡り

運河で有名なアムステルダムの運河巡りの遊覧船は東京駅のモデルとして有名なアムステルダム中央駅の正面（東京で言うと丸の内側）から発着する。運航は数社があって航路も色々のようで、結構な観光客がたむろしていたが、一番駅に近い発着所のラヴァーズ社の船を選んだら、以外にもすぐに乗船できた。最初にアムステルダム海洋博物館の傍を通って時計回りに街を一周した。跳ね橋が所々にあって、風景自体は街歩きと変わらないが、やはりここに来たからには乗らないでは帰れないだろう。

アムステルダム中央駅前の船乗り場

ラヴァーズ社のメインの船乗り場

（２）アムステルダム海洋博物館

外から見ると船の形にも見える傍の近代的なサイエンス・センターの建物と対照的に古い建物と帆船アムステルダムが見える。帆船アムステルダムは内部見学できるが、行って説明を見たら 1985 年に造られたレプリカだった。博物館自体は 1656 年に建てられた海軍の倉庫だったそうで、コレクションは相当なものだが近代的なものはほとんど無く、記憶が定かでは無いが、やはり中庭があって回廊形式になっているグリニッジの海洋博物館に似ている感じがした。

海洋博物館全景（左が帆船アムステルダム）

（３）アムステルダム港

アムステルダム港の港巡りの遊覧船を探してみたがよくわからなかった。ただ、アムステルダム中央駅の裏側（東京駅で言う八重洲側）は直接港で、対岸への無料のフェリー（人と 2 輪車のみの両頭船）が離れた場所も含めて 7 航路程走っている。中でも、F4 航路の NDSM 行きフェリーは乗船時間 14 分と最長で、途中の船の出会いの他、元造船所の跡地である NDSM 地区は住宅地でもあり、古い船のたまり場だったりもして新旧ミックスした興味深い場所だった。なお、アムステルダム中央駅の少し奥にはクルーズ・ターミナルがあり、駅前（裏）を通るクルーズ船の姿はダイナミックであったが、アムステルダム市はオーバーツーリズム対策でクルーズ船の寄港を制限する条例を採択しているそうで、今後はどうなるのだろうか。

アムステルダムのフェリー「IJVEER51」

アムステルダムのフェリー「IJVEER60」

1912 年製の外輪船「KAPITEIN　ANNA」NDSM にて
（現在はディーゼルのホテル／パーティ船）
元、KAPITEIN KOK、REEDERIJ OF DE LEK 6

NDSM にて　他にも変わった古い船が多数

出港する「マリーナ」
右後方は客船ターミナルと「ヴァイキング・ネプチューン」

出港する「マリーナ」と
遊覧船「DE PANNENKOEKENBOOT」

出港して行く「シーボーン・オヴェイション」

クルーズ船「DE AMSTERDAM」